

会計アドバンス演習		教授 廣瀬 郁雄	
科目カテゴリ	会計ファイナンスコースの 選択必修科目	科目ナンバリング	23010201

1. 授業のねらい・概要

会計に関する高度な国家資格等を取得するための専門的な知識の修得を目指した演習である。国家資格等に合格するためには、授業を聴講するだけでは充分ではなく、かなりの自主的な学習と、そのための厳しい自己管理が必要になる。そしてまた、なるべく早い時期からどのような学習をするかを理解し準備しなければならない。本演習は、そのような国家資格等の取得に意欲の高い学生を対象に在学中での合格を目指すことを目標とする。

この会計アドバンス演習は、授業計画にあるように、日商簿記検定2級合格程度の能力を有する学生を対象に、2020年8月予定の税理士試験の一部科目（簿記論、財務諸表論）合格目標とした演習形式の授業を行う。

2. 授業の進め方

下記の授業計画に従って、適宜、関係資料を配付して授業を進める。

3. 授業計画

1. 会計アドバンス演習の目的（ガイダンスを含む）	9. 金融商品会計基準の研究
2. 企業会計原則の研究①ー一般原則(1)	10. 棚卸資産評価会計基準の研究
3. 企業会計原則の研究②ー一般原則(2)	11. 固定資産の減損会計基準の研究
4. 企業会計原則の研究③ー損益計算書原則(1)	12. リース取引会計基準の研究
5. 企業会計原則の研究④ー損益計算書原則(2)	13. 税理士試験過去問題の検討①ー2019年度
6. 企業会計原則の研究⑤ー貸借対照表原則(1)	14. 税理士試験過去問題の検討②ー2018年度
7. 企業会計原則の研究⑥ー貸借対照表原則(2)	15. 税理士試験過去問題の検討③ー2017年度
8. 企業会計原則の研究⑦ー貸借対照表原則(3)	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の課題に対して、レポートはレジュメの作成並びに2時間以上の参考文献を含む予習をすること。その他の学生は、課題に対して最低1時間以上の参考文献を含む予習をしてくること。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートに対してその内容についてコメントを付けて返却する。その際に追加の課題が出された学生は再レポートを提出すること。

6. 授業における学修の到達目標

毎回の課題に対して、疑問を残さないように細かなことも質問し、授業後必ず復習に2時間以上かけて課題に対してサブノートにまとめあげること。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取組み姿勢（80%）及びレポート課題の結果（80%）で評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは特にありませんが、参考書等は授業の中で紹介する。

参考文献として、受験月刊誌『会計人コース』中央経済社を利用する

9. 受講上の留意事項

2020年度税理士試験の一部科目（簿記論及び財務諸表論）合格を目指そうとする意欲の高い学生を募集する予定で

ある。人選する基準としては、日商簿記検定2級程度の内容が理解できる能力を有する学生を対象とする。